

佐伯地区医師会

学校生活での皮膚疾患 伝染性軟属腫

幼児から小児に多く見られるウイルス感染症で、いわゆる「みずいぼ」です。ポックスウイルスに属する伝染性軟属腫ウイルスの感染で生じます。

症状は光沢をもったわずかに中央がへこんだ小丘疹が多発してみられます。摘除すると内容物として白色半透明で光沢のある軟属腫小体がみられます。

治療ですが、皮膚科では先の尖ったピンセットなどを用いて摘除するのが一般的です。疼痛や出血を伴うため、当院ではあらかじめリドカインテープ（張り薬タイプの麻酔薬で保険適応となっている）を2時間前後丘疹に貼付し疼痛を軽減してから摘除を行います。長期的にみれば自然治癒するといわれてはいますが、数年にわたって皮疹が増え続けることがあります。数が多ければ多いほ

ど摘出される児も摘出する医師も苦痛が多くなります。昨今、色々な方法が提示されてはいるのですが、現状では数が少ないうちにテープで除痛してから摘除するのがベターではないかと考えています。

感染経路は経皮感染で、多くの場合は皮膚の直接接触で感染するといわれています。法律で決められた明確な登園、登校の停止規則はないため、夏季のプールなど経皮接触がおこりやすい時期に流行する傾向にあります。感染予防のため、伝染性軟属腫に罹患中の患児には長袖、長ズボンで肌の露出を抑えてプールなどに入るように指導します。

J A 広島総合病院
皮膚科 北野文朗